

月刊

# グラフィックサービス

## No.892 2026 3

# GS



株式会社河内屋  
代表取締役 國澤 良祐 さん  
(P21 HOTNEWS から  
BB をご覧ください)

### ■ 巻頭企画

## 被災地の現状から考える地域防災

### ■ 巻頭言

## ジャグラ70周年から次の10年へ

— 専務理事 田中 良平

### ■ 連載 SPACE-21 広報部

グラフィックサービスが好きだ。  
だからこそ、四国に「本音」で語れる場を。

### ■ 寄稿

## ジャグラ文化典大阪大会PR

### ■ NEWSとお知らせ

ジャグラ作品展最後のお願い  
機関誌制作 委託業者募集のご案内  
優良従業員表彰の申請を受付中  
第61年度・第5回理事会 議事録抄録

CONTENTS

■ 巻頭言

- 1 **ジャグラー 70 周年から次の 10 年へ**  
専務理事 田中 良平

■ 巻頭企画

- 2 **被災地の現状から考える地域防災**  
北陸地方協議会総会・新年会より

■ 寄稿

- 24 **ジャグラー文化典大阪大会 PR**

■ 連載

- SPACE-21 広報部  
26 **グラフィックサービスが好きだ。  
だからこそ、四国に「本音」で語れる場を。**

■ NEWSとお知らせ

- 6 **ジャグラー作品展最後のお願い**  
8 **機関誌制作 委託業者募集のご案内**  
9 **優良従業員表彰の申請を受付中**  
10 **第61年度・第5回理事会 議事録抄録**  
22 **中小企業労働事情実態調査**  
23 **新刊案内「積算資料 印刷料金2026年版」**  
28 **Zine & Bookフェス レポート**

■ NEWSとお知らせ

- 12 JFPI REPORT ダイジェスト版  
21 ジャグラーBBホットニュース  
27 業界の動き  
(株)グッドクロス「はじめての社内報マニュアル」無料公開  
日本出版取次協会／電子出版制作・流通協議会  
「出版業界でのデジタル印刷活用を推進する共同宣言」を発表  
.....  
20 雑学コラム⑨  
29 事務局日誌と今後の予定

- 13 学校法人日本プリンティングアカデミー後援会  
14 富士フィルムグラフィックソリューションズ(株)  
15 リコージャパン(株)  
16 (株)ショーワ  
17 (株)小森コーポレーション  
18 東京リスマチック(株)  
19 ホリゾン・ジャパン(株)  
20 (株)研美社  
表4 リョービMHI グラフィックテクノロジー(株)

月刊グラフィックサービス 発行趣意

月刊『グラフィックサービス』は、一般社団法人日本グラフィックサービス工業会会員、関係諸団体およびすべてのステークホルダーの皆様へ、自社の質的向上に役立ち、知恵と勇気を分かち合うことを目指し発行するものです。

本会の存在意義である人間交流スペースを構築し、社会の多様な要請にタイムリーに対応しつつ、共通の経営課題を持つ会員をネットワーク化し、その交流を積極的に支援するとともに小さいことでも有利となる経営施策も発信する情報ターミナルとなることを理想とします。

またその情報発信手段は誌面にとどまらず、環境に応じて多様な発信方法を検討、遂行することを責務とします。

【概要】

発行回数	月1回 / 年間12回	配布方法	・全会員へ直接郵送
購読料	ジャグラー会員は無償(会費に含む) ・希望企業、団体への有償配布		・ジャグラーホームページからのダウンロード

本誌へのご意見・ご要望・記事提供は下記宛お寄せください

Eメール [edit@jagra.or.jp](mailto:edit@jagra.or.jp) 電話 **03-3667-2271** ファクス **03-3661-9006**

お手紙 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 〒103-0001 (一社)日本グラフィックサービス工業会 宛

# ジャグラー70周年から 次の10年へ

専務理事 **田中 良平**



ジャグラー会員の皆様、日頃は本部の活動に多大なるご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

3月ということでは一年の振り返りと共に、70周年の所感を述べさせていただきます。

今年度はジャグラー創立70周年ということで6月に東京にて賑々しく東京大会を開催することができました。東京大会実行委員会をはじめ、東京グラフィックサービス工業会の皆様に改めて感謝申し上げます。

箱根・大涌谷で開催された設立総会の様子は『軽印刷全史』に記載されていますが、諸先輩方の熱意が誌面からひしひしと感じられます。この熱意は70年経った今も変わらないことを東京大会で実感することができました。

この間、東京大会をA面とするなら、B面では2024年12月からジャグラー70周年記念誌編集委員会が70周年誌の作成に向け、日々活動を進めてまいりました。3月末には皆様のお手元に届くかと存じます。

70周年記念誌をまとめるに当たり、50周年誌や60周年パンフレットをはじめ、ニッケイビルに保管された様々な歴史資料を掘り起こし、70周年誌で何を残し、何を伝えていくべきなのか、委員の皆様と議論させていただきました。

歴史に関しては、70年も経つと「ガリ版」について語れる方も少数となり、ニッケイビルに保管された数々の謄写資料の歴史的価値も分からず、このままではジャグラーの歴史を残せなくなると思い、謄写印刷資料館館長でもある後藤卓也副会長にご無理を言って、本部で会議がある時は早めにニッケイビルに入いただき、9階に籠って山積みされた謄写印刷の資料を整理していただきました。その成果は「素晴らしき謄写印刷の世界」をご覧ください。また、孔版印刷の世界が今どのように動いているのかに関しましては、理想科学工業様のご協力をいただき、文具メーカーのコ

クヨさんの取り組みをご紹介させていただきました。

未来に向けたメッセージのところでは、SPACE-21の前代表幹事だった笹井靖夫編集委員にプロデュースしてもらい、若手経営者の本音を聞くことができ、私自身、非常に勉強となりました。

その他にも委員の皆様アイデアから生まれたAI対談やジャグラーコンパクトDX事業の記録、トピックスとしての印刷通販など、読み応えのあるコンテンツを揃えております。

70周年誌はこの10年を記録するだけでなく、次の10年、20年先のグラフィックサービス業をつないでいく糧になると思っております。お手元に届きました際は是非、ご一読いただき、様々なご意見頂戴できれば幸いです。

一方で、この一年間を振り返りますと、全国各地におうかがいする機会をいただく中で、ジャグラーコンパクトDX事業をはじめ、本部の活動、提供するサービスが十分に皆様にお届けできていないということを再認識させられました。大変申し訳ございません。

理事、委員の皆様をはじめ、本部事業に係わる方々には活発に活動していただいた一年間でしたが、この熱量を来期以降も持続していくにはジャグラー会員一社のご理解、ご協力が不可欠です。ジャグラーを感じるメリットはそれぞれあると思いますが、ジャグラーBBや各種コンテストといった既存事業なども改めて見ていただくと新たなビジネスヒントにつながるかもしれません。機関誌やジャグラー公式アプリ、メールマガジン、ジャグラーBBをご活用いただき、情報をキャッチしていただければ幸いです。

情報伝達を主軸とする業界団体の事務局としまして、来年度はさらに皆様への情報発信を密にし、ジャグラーを身近に感じていただけるよう邁進してまいります。引き続き、皆様からのご指導ご鞭撻をいただけますよう、本部事務局一同お願い申し上げます。

# 巻頭 企画

## 被災地の現状から 考える地域防災

### 北陸地方協議会総会・新年会より



講演する  
山崎さん

東日本大震災から15年、2016年の熊本地震、2018年の北海道胆振東部地震、2024年の能登半島地震、そして昨年末の青森県東方沖地震と、大型地震だけでも4回発生しており、日本が地震大国であることが再認識されます。共同通信の『「南海トラフ巨大地震」地図とデータで見る新・被害想定』によると現在、懸念されている南海トラフ巨大地震は、24府県で震度6弱以上を記録し、死者298,000人、経済被害292兆円と予測されています。いつ、どこで起きるか分からない災害に備えるには日頃の取り組みが欠かせません。過去の震災から今、何ができるのか、やるべきなのかを学ぶことは大切な人の命を守ることに繋がります。本稿では、2月7日に開催された北陸地方協議会の総会・新年会に併せて行われた、能登半島地震の被災地巡りや講演会から地域防災や復興の課題などを紹介します。

### 「災害時に考える— 1人ひとりができる“支え合い”とは」

2月7日、七尾市能登島の民宿「花藤」で開催された総会前の講演会では、志賀町社会福祉協議会の山崎美里主任生活支援相談員から、災害ボランティアセンターの運営から見た課題と可能性についてお話をうかがいました。

社会福祉協議会（社協）は、市区町村など、地域の社会福祉法人や福祉施設、民生委員、児童委員などと連携して「福祉のまちづくり」を目指す非営利の民間組織です。平時は高齢者介護や障がい者、生活困窮者の生活支援を中心に活動しています。災害時には全社協や県社協と連携しながら、災害ボランティアセンターを設置運営して被災者支援の拠点として活動します。

ひとたび災害が発生するとその直後から企業、団体、個人など様々な支援が被災地に入りますが、広域災害の場合は支援の手が分散してしまい、地域によって十分な支援が得られるまで時間を要することもあります。志賀町も十分な人手があったわけではなく、当初、自身も被災しながら、できる人たちができることをという想いで個々のつながりを利用し、民生委員や商工会の青年部などの協力を仰いで活動をスタートしました。

発災時の志賀町の状況としては、最大震度7を記録し、町内で直接の死亡者が2名、関連死が24名となっています（令和8年1月5日発表）。町内の病院もスプリンクラーが壊れて院内が水浸しになり、受け入れが十分できなかったり、断水が2月中旬まで続いて思うように活動が進まなかったと山崎さんは振り返ります。3月初旬に全地域で通水しましたが、個人で浄水層を持っている住宅ではそちらの修復待ちの状態も残っています。

建屋に関しては、半壊以上が公費解体の対象となります。志賀町の公費解体の多くは、納屋や蔵といった家屋に連なった非住戸が多かったそうです。昨年7月で約2,000の家屋の公費解体が終了しています。人口推移としては、震災前18,255人だった町内人口が、令和7年12月末時点で17,136人に減少。約200世帯がいなくなりました。この数字は他の地域に比べると減少幅は小さいそうです。しかし、元通りに戻っていくという訳ではなく、ご高齢の方の中には家族も外に出て自分一人であったりするため、家屋を再建せずに公営住宅へ移るか迷われているケースもあります。

### 災害ボランティアセンターの設置・運営

震災直後に話を戻すと、災害発生の翌日には災害支援センターを設置する方向で準備がスタートし、9日に設置が完了したことを広報し、26日からボランティア活動の受け入れを開始しました。災害ボランティアセンターはその名の通り、災害ボランティアの受け入れ窓口としての機能を果たします。

ボランティアにきた企業、団体、個人を受け、活動内容でマッチングして、オリエンテーションを開き、グループを作って送り出す。ボランティアは活動したらセンターに

戻って資材を返却して活動を報告して帰るという流れで動いています。

受付は最近QRで本人が直接行くということも増えていると言います。もともと受付自体はボランティア保険に加入してもらうための意味合いが強いからです。受付から活動開始まで1時間ほどかかってしまいましたが、二重事故が起きないようにするための大切な時間となります。

具体的な活動としては、海岸線の清掃や住宅の家具出しなどで、志賀町で意外と多かったのは「灯籠案件」だったそうです。一軒家が多く、各家屋で灯籠を複数設置しているところがあり、これは人手だけで動かすのが難しかったことから撤去に苦労したようです。

何とかボランティア等の力を借りながら復興を進めてきましたが、山崎さんは今回の地震で分かった災害ボランティアセンターの3つの課題を挙げます。

一つは人です。志賀町の社協には8名の職員がいますが、通常業務として介護支援もあり、災害ボランティアセンターの仕事ばかりに集中して人を出すことができませんでした。全国の社協から多い時で13名の応援を受けましたがそれでも足りない状況だったと振り返ります。

二つ目はモノです。軽トラックが圧倒的に足りず、廃材などの運搬が遅々として進みませんでした。ボランティアの持ち込みを可能にしていたのですが、実際に軽トラを持っ



倒壊した家屋の一部



崩れた神社の鳥居



ボランティアセンターの説明の様子

てくる人は少なく、結局、レンタルで調達しました。水もなく、道路状況も良くならないため整備に時間がかかったそうです。

三つ目はお金です。災害ボランティアセンターの運営経費は赤い羽根共同募金の災害等準備金が使われますが、実際にそれだけでは足りないため、社協が持ち出したり、寄附金を使うなど、志賀町のセンターだけでも数千万円の経費が出ていきました。

これらの課題を解決する手段として、「広報に力を注ぐべきだった」と山崎さんは自省します。広報の差はそのまま支援の差になっていました。情報の受発信では日頃から付き合いのあった民生委員の方の協力を仰いでFacebookで発信し、町内のボランティア募集チラシも作りました。高齢者の多い志賀町では、スマートフォンで情報を得る人は少なく、印刷物を全世帯に配布するため、民生委員を通じて各地区長さんに配布を依頼してまわりました。最初は手づくりしていた印刷物も時間がかかるため、民生委員に依頼してデータの作成から印刷まで外部にお願いしたそうです。

## “知っている”からできる支え合い

今回の能登半島地震を経験して山崎さんは地元の力の大切さと限界を感じたと言います。

「日頃のお付き合いや声かけで関係性を作らないと有事

に支援がお願いしにくいことが分かりました。商工会議所の青年部の方などにもお願いしたり、日頃は町の花壇の手入れなどをしてくれているボランティアにお手伝いをお願いしたところ、出来ることをということでセンターの清掃やごみの分別をやってくれたので大変助かりました。地元のボランティアだけでなく、企業や業界団体と連携して、災害時の細かな役割を確認しておけば、もっとできることが増えてくると思います」と述べ、最後に避難所に居た90歳の女性の話を語りました。その女性は一人で住んでおり、十分に歩くこともできない状況だったので、どうやって避難所まで来たのかを聞いたところ、隣に住む若い男性が女性を避難させるために家まで助けに来てくれたそうです。しかし、その男性とは日頃から会話を交わしたこともない程度のつながりでした。ただ、その若い男性は「隣の家に90歳の一人暮らしの女性がいて、一人で動くのが難しい」ということを日頃から知っていたという点が女性の命を救うことにつながったと強調します。

「支え合い」やいざという時の「防災」は“知っている”という日常の積み重ねから生まれるということが分かるお話でした。

震災から2年が経過し、災害ボランティアセンターはその教訓を受けて、志賀町地域支え合いセンターへとその姿を変え、地域コミュニティの形成から被災者の生活再建支援を行っているそうです。

## 和倉温泉から輪島へ…復興の道は半ば

2月8日、前日とは打って変わって、一面雪景色になった能登の被災地を視察しました。最初は和倉温泉の老舗旅館・加賀屋です。海沿いに面した風情のある格式高い旅館でしたが、地震により現在の建屋での継続は不可能と判断し、昨年公費解体が決定しました。外から見ても分かるほど、建物のいたるところに亀裂が入っていました。その周辺のホテルの多くが休業または一部のみの再開で、更地になっているところも元はホテルや旅館などがあったと、石川県支部の黒沢支部長からお聞きしました。和倉温泉観光協会の発表によると昨年末時点で20軒ある旅館の内営業を再開しているのは9軒に留まります。

和倉温泉を見学した後は、輪島へと向かいました。同地では1901年創業の柚子餅総本家中浦屋の中浦政克社長のもとを訪れ、震災時の様子や復興状況をお聞きし、焼失した輪島の朝市跡を見学しました。

中浦社長の話によると、地震直後、ハザードマップ上では津波の心配はないとされた海の近くに居たが、東日本大震災の記憶から危機感を覚え、多くの人が高台に避難しました。その高台から朝市の方も見えていましたが、当初遠くで燃えていた火の手が次々と延焼し、自身の朝市店も燃えていったそうです。

様々な要因が重なって一夜にして歴史ある輪島の朝市は

消失しました。要因としてまずは地震で町中の家屋が倒壊して消防車が来られなかったことが挙げられます。そこで消火栓を使おうとしたが断水で水が出ず、仕方なく川から取ろうとしたが地震で地盤が隆起して思うように取水できなかったこと、消火栓の口径が異なり、二階に少し水が送れる程度の威力しかなく、成す術が無かったとのこと。

輪島の復興に関しては時おりテレビなどで見ることができますが、実態として「十分ではない」と中浦社長のお話から伺えました。特に輪島の朝市の消失はインパクトも大きく、行政等の多くが朝市跡地の復興に多くのリソースを割いており、町全体にまで行きわたっていないようです。交流人口によって栄えてきた輪島ですが、町全体としてどのように復興させていくべきなのか、大きな岐路に立っています。こうした現状も一般報道で見聞きするだけでなく、直接現地に赴くことで肌身に感じることができました。

大荒れの天気予報でところによってホワイトアウトする中、安全運転でアテンドをくださった石川県支部の皆様様に改めて感謝申し上げます。

最後に、7日の新年会では石川県支部の斉藤印刷出版の斉藤社長も所属する「七尾まだら保存会」メンバーによる祝儀歌や向田雨乞い太鼓保存会による演奏が披露され、大いに盛り上がりました。四拍子のリズムに手を打ちながら、共栄の中井社長が伝統芸能も震災以降、披露する場が無くなり、こうして多くの人前で演目ができるということが嬉しくて仕方がないというお話が胸にしみました。



更地となった輪島の朝市跡



取り壊しとなった加賀屋（壁面がひびわれている）



被災時の様子を語る中浦社長



七尾まだらを披露する保存会の皆さん（右から二人目 斉藤社長）



北陸地協の皆さん



# ジャグラ作品展募集は

2026年  
**遂に締切!! 3月31日まで!**

**【作品は2025年に作られたものに限りませす】 Apply now!**

～ 令和6年度 大臣賞受賞作品 ～



出版部門 経済産業大臣賞  
『目で見える馬術』  
オリンピック印刷(株) / 大阪府支部

宣伝部門 経済産業大臣賞  
『ブラックライトカクテルメニュー』  
長瀬印刷(株) / 福島県支部

業務用印刷物部門 厚生労働大臣賞  
『年賀状が、へびをテーマにしたカードゲーム!?』  
(株)ガリバー / 神奈川県支部

開発・開拓部門 厚生労働大臣賞  
『ハガミさん』  
(株)クリエイティブ横浜 / 神奈川県支部

## 開催要項

〈審査対象〉  
作品は2025年中に完成したものに限りませす  
(2025年1月1日～12月31日までの作品)

〈審査方法〉  
全三回の審査会にて審査基準に基づき採点し、  
順位を決定

〈応募方法〉  
・応募作品に申込書を添えて、本部までご送付ください  
・申込書はジャグラHPよりダウンロードできます  
・原則、作品の返却は行っていません

「ジャグラ作品展」とは  
グラフィックサービス業の技術力向上や  
マーケットへのアピールを目的とするもので  
ジャグラの前身である日本軽印刷工業会が  
社団法人を設立した1966年より  
開催されている歴史あるコンクールです。

過去の受賞作品はこちら→

申込日 年 月 日

会社名	担当者
住所	支部
E-mail	電話 / FAX

発注者に出品の了解を得て、または受賞後了承を得る予定の作品、かつ著作権を侵害したものではありません。  
チェックをお願いします

事務局キリトリ線

作品名 (記入必須)  No. 事務局記入欄

### 希望する部門にチェックしてください (希望にそえない場合もあります)

- 出版部門** いわゆる出版物と言われるもの  
単行本、文芸書、文集、記念誌、教科書、学術参考書、専門書、法規集、写真集、雑誌、ハンドブック、自費出版、復刻版など
- 宣伝部門** 宣伝的要素の強い印刷物で、主としてカラー印刷物や凝った印刷物、デジタルコンテンツ  
カタログ、ポスター、ダイレクトメール、リーフレット、チラシ、POP、パンフレット、カレンダー、PR誌、各種案内書、HPなど
- 業務用印刷物部門** 本業界が主流としてきた印刷物。また、商業印刷物のうち、モノクロ印刷物も含む  
研究報告書、機関誌、便覧、手引書、会議資料、大会等資料、会報、年報、パーソナルユース(年賀状、レターヘッド、ハガキ、名刺)など
- 開発・開拓部門** 顧客からの受注製造ではなく、自社で開発した商材・サービス  
自社開発のコンテンツ、アプリ、デジタルコンテンツ、販促グッズ、独自提案ツール、独自加工技術など

### 特に評価して欲しい項目にチェックしてください (複数選択可能)

- 企画・編集への参画**  
製作物の企画構成・取材・執筆・編集・校正などへの参画
- 設計・提案**  
表紙・本文のデザイン・書体・用紙・加工、素材等の提案
- 文字組版**  
難易度が高い・禁則ルール等
- 完成度**  
印刷や造本、製作物の仕上がり
- 後加工・付加価値**  
特殊加工・特殊印刷等
- 開発・開拓**  
新商品開発・新規開発手法・開拓の視点・狙い等
- 顧客開拓、創注**  
企画提案から顧客開拓、創注に結びついた
- 課題解決**  
お客様の課題解決に結びついた
- マーケティング・効果測定**  
マーケティング・効果測定・デジタル技術の活用
- 社会性**  
CSR・SDGs・持続可能な社会貢献等
- その他 ( )**

### ■ アピールポイント (自由にご記入下さい) 【任意】

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

# 機関誌制作 委託業者募集のご案内

締切 2026年5月8日(金)

ジャグラ広報委員会は、下記の通り月刊グラフィックサービスの制作委託業者を募集します。入札に際しては、価格だけでなく誌面デザイン、内容も重視します。下記使用をご確認のうえ、ご提案書・見積書を5月8日までに郵送(必着)または本部事務局までご持参ください。  
お問い合わせ・送付先はジャグラ事務局・田中まで (03-3667-2271、tanaka@jagra.or.jp)

## 機関誌『グラフィックサービス』の印刷・製本 委託業者募集

### ○委託期間

本年7月号より2年間(2026年7月号～2028年6月号)

### ○本誌仕様

- ① A4判
- ② ページ数: 32頁以上(表紙込み)
- ③ 色数: 表紙4C、中面1C(本誌参照ください)
- ④ 校正: 表紙・本文ともPDFによるWeb校正可能
- ⑤ 入稿: Adobe CC生データ
- ⑥ 印刷: 印刷業者等で構成する一般社団法人が発行する機関誌として相応しい品質であること
- ⑦ 1,100部
- ⑧ 納品: ジャグラ事務局、直納または発送会社
- ⑨ 納期: 校了後7営業日以内(厳守)
- ⑩ 備考: 印刷・製本に関しては、その種類(オフセット/オンデマンド、無線綴じ/中綴じ)問いません。

### ○見積書・提案書(様式不問)について

- ① 印刷・製本の見積書としてお願いします。
- ② 印刷・製本以外=取材、制作(編集)、発送などのご提案については別見積りとしてください。
- ③ 本誌バックナンバーなどもご参考の上、ご応募ください。

## 機関誌『グラフィックサービス』の編集・レイアウトデザイン制作 委託業者募集

### ○委託期間

本年7月号より2年間(2026年7月号～2028年6月号)

### ○本誌仕様及び制作スケジュール

- ①～⑧までは「印刷・製本」と同じ。
- ⑨ 平均制作スケジュール:
  - ・発行月の前月第一週から中旬(12日前後)頃まで事務局より原稿を入稿。
  - ・規定の文字付ルール等に合わせて誌面をレイアウトデザインする。表紙デザイン込み。テーマは委員会で決定。
  - ・初校、再校の修正を同時進行。
  - ・全頁最終確認後に納品(24日頃)

### ⑩ 校正回数: 3回

⑪ 支給データ: 文字原稿(Word、Excel)、画像データ(修正来若干有り)

### ○求められる制作環境

Adobe生データでの入稿となります。毎回、誤植などの修正作業が発生するため、Adobe CC最新バージョンおよびモリサワ書体の所有は必須。

### ○見積書・提案書(様式不問)について

- ① レイアウトデザイン、印刷データの制作見積書としてお願いします。
- ② その他のご提案については別見積りとしてください。
- ③ 本誌バックナンバーなどもご参考の上、ご応募ください。
- ④ 「印刷・製本」の委託と両方合わせた応募も受け付けます。



# 優良従業員表彰の申請を受付中です

ジャグラ文化典において実施する優良従業員表彰の申請を受付中です。申請には所属支部長の承認が必要ですので、下記をご覧のうえお手続きください。(申請書は本部より支部長に配布済です)

## 表彰基準

- ① その従業員が優秀で、他の従業員の模範になる場合
  - ② その従業員が優秀な業績を残した場合
  - ③ その他、その従業員を表彰するにふさわしい場合
- その従業員が上記のいずれかに当てはまると代表者が判断した場合に申請できます。
- ※従業員とは「労働組合法第3条」による労働者(賃金その他これに準ずる収入で生活するもの)であって法人の場合は社員から役員になった者であっても、出資金がその法人の資本総額の十分の一以下であれば従業員とします。当該事業所に従事している事業主の配偶者は除外します。

## 経費の負担

- ① 優良従業員に授与する表彰状・記念品はジャグラが用意しますが、経費は事業主の負担となります。費用は概ね1万円見当です。後日、請求書を送付しますので、振り込みをお願いします。
- ② 優良従業員が表彰式に出席するための一切の経費は、表彰の趣旨を生かすため、事業主の負担となります。

## 支部長の承認および本部への提出

- ① 申請書は支部長が受け取り、支部役員でこれを検討、適正の場合のみ、該当欄に記名押印し、一括して本部へ提出してください。
- ② 本部締め切りは4月17日必着です。(5月8日の理事会に間に合わせるため)

## 表彰決定の通知

- ① 各支部長より提出のあった申請書は、本部理事会の承認を得たうえで、ジャグラより各事業所に書面で通知します。

## 表彰式

- ① ジャグラ文化典大阪大会式典(6月20日、リーガロイヤルホテル大阪)で優良従業員へ表彰状および記念品を授与します。
  - ② 優良従業員の懇親会への招待はありません。懇親会出席を希望される場合は、全額事業主負担となりますので実行委員会宛に別途お申し込みください。
- ※表彰式欠席者へは、後日、賞状および記念品を送付いたします。(会社の住所宛)

◆ お問い合わせ ◆ 詳細は右記事務局へお問い合わせください。 ジャグラ事務局・笠原 電話 03-3667-2271

一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会

# JaGraグループ保険制度

災害保障特約付・災害割増特約付団体定期保険

- ◆ 割安な価格で充実の福利厚生 (例: 30歳男性、1口327円/月)
- ◆ 70歳まで加入可能
- ◆ 死亡以外に事故による入院も保障
- ◆ 医師の診査不要、告知のみで申込



加入・お問い合わせはジャグラ事務局まで

☎ 03-3667-2271

# 第61年度・第5回理事会 議事録抄録

ジャグらは1月7日、ニッケイビル8階会議室ならびにZoomで第61年度第5回理事会を開催しました。理事会議事録抄録を報告します。

## 第一号議案 役員の派遣・スケジュールに関する件

〔提案内容〕

役員の派遣・スケジュールを別紙のとおり決定したい。(巻末参照)

《検討の経緯》

その他、議場に質問・意見を諮ったところ、発言はなく満場一致で承認した。

## 第二号議案 年間スケジュールに関する件 (承認事項)

〔提案内容〕

年間スケジュールについて提案する。

《検討の経緯》

議場に質問・意見を諮ったところ、下記追加があった。その他発言はなく満場一致で承認した。

《主な意見・質問》

- 1月16日(金) 岩手県支部新年会の会場→ホテルロイヤル
- 【追加】11月21日(土) SPACE-21 全国協議会 会場：愛知県
- 【追加】5月30日(土) 関東地方協議会主催セミナー 会場：栃木県
- 伊東邦彦理事：10月16日(金)に正副会長会議が予定されているが、同日に全印工連の印刷文化典が沖縄で開催される。問題ないか。
- 田中専務理事：3月の正副会長会議で10月16日(金)の正副会長会議を別日程に変更したい。

## 第三号議案 事業と役割分担に関する件 (承認事項)

〔提案内容〕

事業と役割分担について別紙のとおり提案する。

《検討の経緯》

下記委員の追加があった。その他、議場に質問・意見を諮ったところ、発言はなく満場一致で承認した。

- ジャグら作品展委員会：(株)中越 小森 幸子氏(新潟・北陸地協)

(株)ホウユウ 田中 幸恵氏(大阪・近畿地協)

(株)ふじたプリント社 藤田 未央氏(山口・中国地協)

(有)ナポリ印刷 池水 孝弘氏(鹿児島・九州地協)

## 第四号議案 役員推薦委員会中間報告

〔報告内容〕

松下委員長より下記内容の役員推薦委員会中間報告があった。

- 11月8日に第1回役員推薦委員会を開催した。出席者は10地協の地協会長。
- 互選により、委員長に松下忠近畿地協会長、副委員長に山本康彦中国地協会長が選任された。
- 冒頭、岡本泰会長から挨拶をいただき、その中で6月の大阪大会を以て任期満了で退任する意思を示された。
- 次期会長候補の推薦について、出席者より原田大輔東京地協会長を推薦する意見があったため、原田氏を委員から外し、原田氏の代わりに東京地協の代表として中村盟理事を委員とした。
- 原田氏の退席後、原田氏を会長候補として推薦する旨、満場一致で承認した。
- 員外の監事候補者として、前沢寿博氏を推薦することとなった。
- 専務理事候補者として、田中良平氏を推薦することとなった。
- 地協推薦候補者は、各地協に選定を依頼しており、ほぼ集約されているため、次の理事会までには共有できる見込みである。

## 第五号議案 新入会員承認に関する件 (承認事項)

〔提案内容〕

11月1日から12月31日までの下記新入会員について、承認いただきたい。

入会日	支部	会社名	従業員数	業務内容
11/4	神奈川	(有)小松製本	2	製本業
11/11	東京城東	(有)友栄写真タイプ社	15	組版・DTP・手帳制作
11/18	東京港	(株)イシカワコーポレーション	6	物流・流通加工、発送代行、人材派遣業

《検討の経緯》

議場に質問・意見を諮ったところ、新入会員については承認

された。その他、岡本泰会長より新入会員の承認ルールについて、理事会承認の必要性を問う問題提起があり、定款第6条に定められた会員資格について、理事会承認ではなく支部長承認を必要とするよう変更する方向で修正案を作成し、次回理事会で審議することとなった。

## 第六号議案 その他に関する件

### ① 予算執行状況

谷川理事より、予算執行状況について別紙資料とともに下記説明・報告があった。

- 1月は後期会費徴収時期になるので、できれば2月中旬には、すべての支部の会費が入るようにご協力いただきたい。事務局は、なるべく早く請求書の送付をしていただきたい。
- 委員会費に関しては、3月決算の都合上、1～3月で支出するものがある場合は、できるだけ早く田中専務理事に伝えてほしい。特にMIS研究委員会・生産性向上委員会は、予算の執行がほとんどできていないので、早急をお願いしたい。
- 運営経費については東京大会、全国協議会が大半を占めているが、予定通り執行していると理解していただきたい。
- 大規模修繕で、3000万円予算のところ2750万円の執行だが、最終的には予算通りの3000万円となる見込み。

② 会員拡大施策のヒアリング(会員拡大クーポン)について 岡本泰会長より、来期予算で新入会員向けキャンペーンとして大阪大会登録料を無料とするクーポン券配布の提案があり、本部予算として50万円を支出する方向で承認された。

《会員拡大クーポンに関する主な意見・質問》

- 原田大輔副会長：本部予算として大会無料招待に最大50万円+クーポン券作成費を支出するということでしょうか。
- 田中専務理事：クーポン券の利用方法や受付時の管理など、運用方法は会員拡大委員会で検討する。

### ③ SHITARA フェア 2026 後援の件

田中専務理事より、SHITARA フェア 2026 後援依頼について承認いただきたい旨提案があり、議場に質問・意見を諮ったところ、発言はなく満場一致で承認した。

### ④ 作品展募集の件

作品展委員会の戸来一裕委員長より、ジャグら作品展について、各支部会員数以上の点数の作品応募をお願いしたい旨、呼びかけがあった。

### ⑤ page2026 出展の件

田中専務理事より、2/18-20の3日間、サンシャインシティコンベンションセンターで開催されるpage 2026にジャグらが出展する。今回は会員拡大委員会を中心に運営するので、ぜひブースに来場して欲しいとの呼びかけがあった。

### ⑥ 東京イノベーション発信交流会出展の件

齋藤秀勝理事より、ジャグらコンパスのPRとして1月16日(金)に東京・お台場で開催される「東京イノベーション発信交流会」に出展する旨報告があった。

### ⑦ ジャグら文化典大阪大会進捗について

岡達也副会長より、6月に開催するジャグら文化典大阪大会の進捗について、準備は順調に進んでおり、各地新年会や会合に参加し大会PRに努めている旨報告があった。

《ジャグら文化典大阪大会に関する主な意見・質問》

- 伊東邦彦理事：大会パンフレットや申込書の配布はいつ頃になるか？
- 岡達也副会長：機関誌2026年2月号に同封で配布する。
- 露木貴弘監事：ジャグらアプリでは、大阪大会の宿泊先を早めに押さえるよう知らせがあったが、会場のリーガロイヤルホテル大阪は実行委員会で押さえているのか。
- 岡達也副会長：リーガロイヤルホテル大阪は宿泊料が高いため、来賓分の室数のみ押さえる予定。会員の方は近隣ホテルを各自手配していただきたい。
- 本村豪経理事：ジャグらアプリですでに大阪大会のニュースを配信しているが、今後は実行委員会から原稿をもらった方がいいのか、それとも機関誌同封パンフレットの情報を流用してニュースを作成してもいいのか。
- 岡達也副会長：継続的にアプリでのニュース配信をお願いしたい。実行委員会から掲載してもらいたいニュースがある場合は、都度お願いしたい。

### ⑧ 日印産連からの周知依頼関係

- 田中専務理事より、下記お知らせと呼びかけがあった。
- 経済センサス活動調査について、2026年6月に調査が行われるため、協力をお願いしたい。
- 下請法改正を含む取引適正化を業界全体で進める方針が示された。下請法の改正内容への理解を深めていただくとともに、今後、実態調査などへの協力が求められる可能性があるため、その際は協力をお願いしたい。

### ⑨ MIS研究委員会からのお知らせ

山本康彦理事より、MIS研究委員会がこの4年間継続して啓蒙してきた「単品損益管理」の取り組みの集大成として、「単品損益の教科書」という冊子を制作中である旨、報告があった。

日印産連の活動ピックアップをご紹介します。

JFPIREPORT冊子と同内容のPDFを掲載しておりますのでぜひ併せてご覧ください。

# JFPIREPORT

ダイジェスト版

各タイトル横の番号ごとに、WEBページで詳細がご覧いただけます。右記のQRコードよりご確認ください。



## 2026年「新年交歓会」

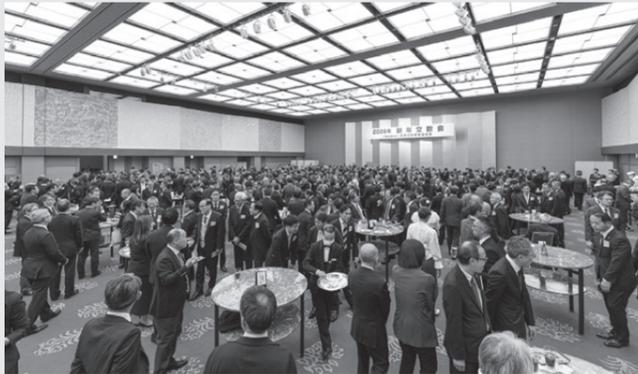
「高付加価値コミュニケーションサービス産業」として社会に求められ

続けるために (2026年1月7日: The Okura Tokyo) [1]



磨会長挨拶

1月7日(水)、東京・虎ノ門の「The Okura Tokyo・平安の間」に、会員10団体や賛助会員、関連業界団体の皆様491名が参集しての華やかな新春の宴となりました。多くの方にご参加いただき、活気に満ちた会となりました。



会場風景

## 2025GP環境大賞等表彰式・「印刷と私」トークショー [2]

2025年10月15日(水)、出版クラブホールにおいて、「2025GP環境大賞等表彰式」並びに「印刷と私」トークショー、懇親会を開催しました。

(右) GP環境大賞ゴールドプライズ表彰 (下) トークショー



新たなビジネス事例 THE FOREFRONT OF THE PRINTING INDUSTRY

### 印刷イノベーション最前線! 第3回 [3]

デジタル化で出版のサプライチェーンに革新もたらす株式会社フォーネット社(東京都)

- ・輸送会社と業務提携し物流力を向上させる
- ・製造面ではさらなる進化を目指して
- ・インライン上でRFIDタグ装着を実現する
- ・出版社のDXプラットフォーム企業へ進化

フィルムパックにアクティベーション機器を導入

## 「第67回全国カタログ展」 「第77回全国カレンダー展」審査会・展示会

第67回全国カタログ展は2025年11月5日(水)、第77回全国カレンダー展は2025年12月10日(水)、共同印刷(株)TOMOWELホールにおいて審査会を行いました。入賞作品の詳細につきましては、日印産連のHPをご参照ください。

カタログ展・カレンダー展の合同表彰式は2026年1月20日(火)に印刷会館で行われました。入賞作品などの展示会は、1月26日(月)～30日(金)に東京サンケイビル・ブリックギャラリーで開催され、同時に「明美ちゃん基金」のためのチャリティ販売も行われました。

[4] 第67回全国カタログ展 入賞作品

[5] 第77回全国カレンダー展 入賞作品

## 第59回 造本装幀コンクール作品募集 Japan Book Design Awards 2026 [6]

応募締切: 2026年4月30日(木)

造本装幀コンクールは、造本装幀にたずさわる方たち(出版、印刷、製本、装幀、デザイン)の成果を総合的に評価する国内で唯一のコンクールです。

「造本装幀コンクール」公式アカウント

X @bookdesign\_jp / Instagram bookdesign\_jp

●その他の活動などについてもWEBページに掲載、更新しておりますので、ぜひご覧ください。 [7]

### 印刷用語集

聞きなれない専門用語も多い印刷用語をカテゴリ別や50音で探すことができ、わかりやすく解説しています。

「印刷って、何?」が、楽しくわかる  
ぷりんとうびあ

### 印刷産業 Monthly Report

各種統計データなどを基に、印刷業の動向、国内経済動向から得意先市場の動向、及び印刷に関わる資機材業の動向を毎月末に公表しています。

### 出版物のご案内

印刷会社のみなさんに役立つ情報を掲載した小冊子をご購入いただけます。



## 人財育成への支援を通じて



会長

浅野 健

(株)金羊社  
取締役会長



副会長

作道 孝行

作道印刷(株)  
代表取締役



副会長

岡本 泰

(株)クイックス  
代表取締役社長

業界の「未来」を創る。

日本プリンティングアカデミー後援会

# 会員募集中 50<sup>会員</sup>突破!

当後援会は、次世代を担う印刷関連産業人の「教育」と「成長」の支援を目的とした会です。私たちは、印刷業界に特化した教育機関であるJPAへの支援を通して、印刷業界で活躍できる次世代の人財育成をサポートしています。また、本会が会員同士の新たなビジネスネットワークの構築・ビジネスモデルの創出のきっかけになればとも考えております。

印刷業界の「未来」を創る = 人財育成の支援のために、ぜひ本会にご入会いただけますようお願い申し上げます。

### 年会費

法人会員 30,000円

個人会員 10,000円

### 入会特典

#### JPA主催セミナーの割引

JPAが主催する社員向けのセミナーが、特別価格でご利用いただけます。新入社員～管理職者向けまで企業の人財育成戦略に合わせた各種研修が受講できます。  
※詳細についてはお問い合わせください。

### 入会方法

右のQRコードを読み取っていただき、入会申込フォームに必要事項を入力の上、お申込みください。申込が確認でき次第、事務局よりご連絡いたします。



お問い合わせ

電話

03-3811-2734 後援会事務局 中村まで 平日9:00～17:30

メール

koenkai@jpa.ac.jp ※件名に「JPA後援会」とご記入ください。

## 印刷業界の人財育成なら当校にお任せください

### 専門学校

「今」の印刷業界で働くために必要な知識・技術を総合的に学べます。

— プリント・コンテンツ学科 (1年制)  
— メディア・コンテンツ学科 (2年制)

### 企業研修

実機を使いながら学べる業界特化型研修で、企業が抱える人財育成における課題を解決します。

— ベーシック研修 — カスタマイズ研修  
— 業務別講座



## 入学者 & 受講企業募集中

学校法人 日本プリンティングアカデミー  
〒112-0002 東京都文京区小石川4-13-2 平日9時00分～17時30分

電話 03-3811-2734

FAX 03-3811-3557

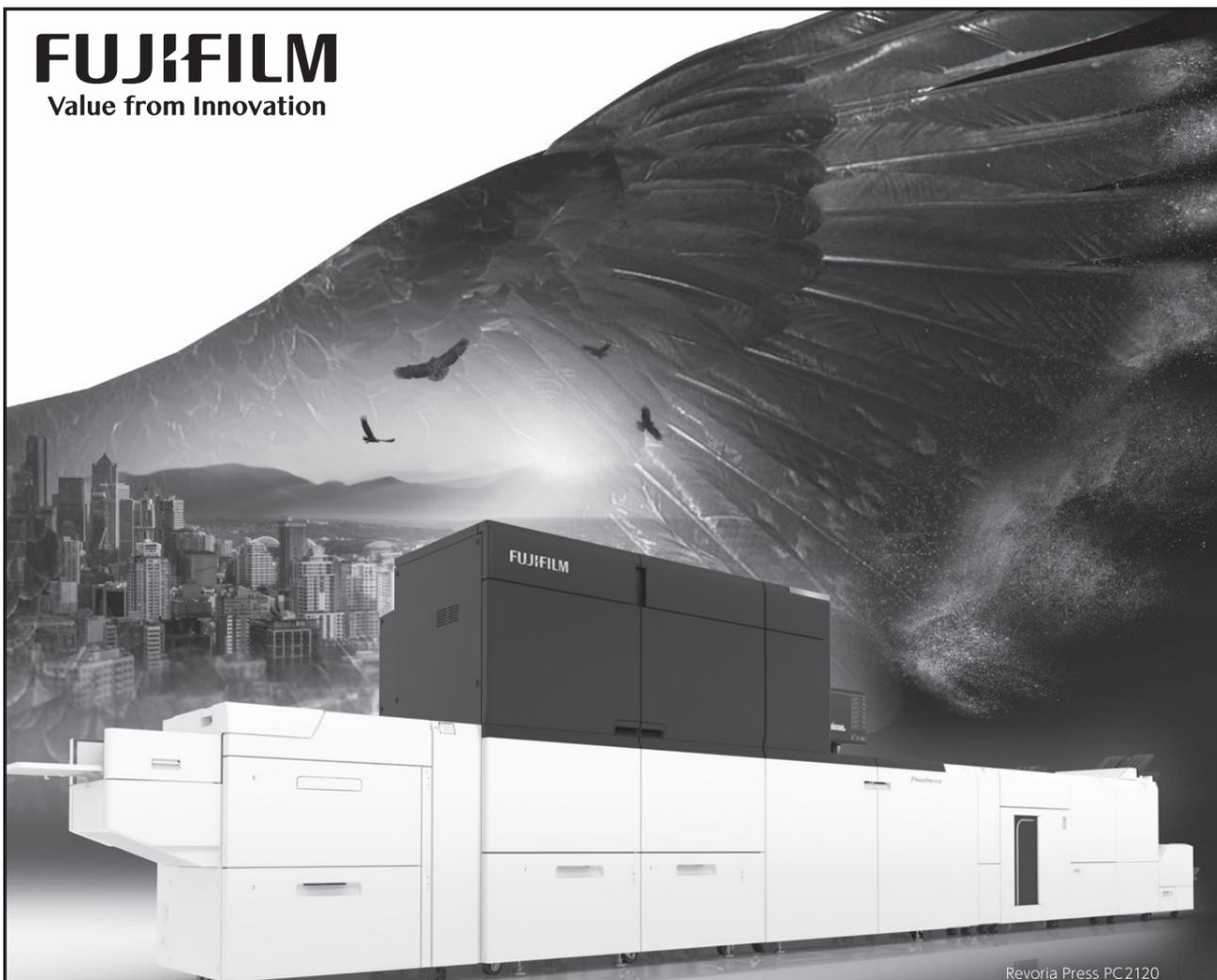
メール info@jpa.ac.jp

印刷 専門学校

検索



**FUJIFILM**  
Value from Innovation



Revoria Press PC2120

**Revoria Press™**

**信頼性と創造力で、  
ビジネスの新たな地平を拓く**

Revoria Press シリーズは、  
プロダクション・プリンティングの領域で積み重ねた信頼性と  
これまでにない付加価値を導く創造力で、  
ハイエンドのプロフェッショナルからオフィスまで、  
お客様のビジネスの成功に向かってともに進みます。



下から Revoria Press EC2100S / EC2100,  
Revoria Press SC285S / SC285, Revoria Press E1 series

富士フイルム ビジネス インベーション株式会社  
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3 TEL:03-6271-5111 (代表)  
<http://fujifilm.com/fb>

富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社  
〒106-0031 東京都港区西麻布2-26-30 富士フイルム西麻布ビル TEL:03-6419-0300 (代表)  
<https://www.fujifilm.com/ffgs/ja>

FUJIFILM、および FUJIFILM ロゴは、  
富士フイルム株式会社の登録商標または商標です。  
Revoria Press、Revoria Press ロゴは  
富士フイルムビジネスインベーション株式会社の  
登録商標または商標です。

**RICOH**  
imagine. change.

**印刷業の未来を  
共に創る**



プリントコンパス 検索

**リコージャパン株式会社**  
〒104-6033 中央区晴海1-8-10

インサツのこれからをかんがえる  
**Print Compass**



# LITHRONE GX/G

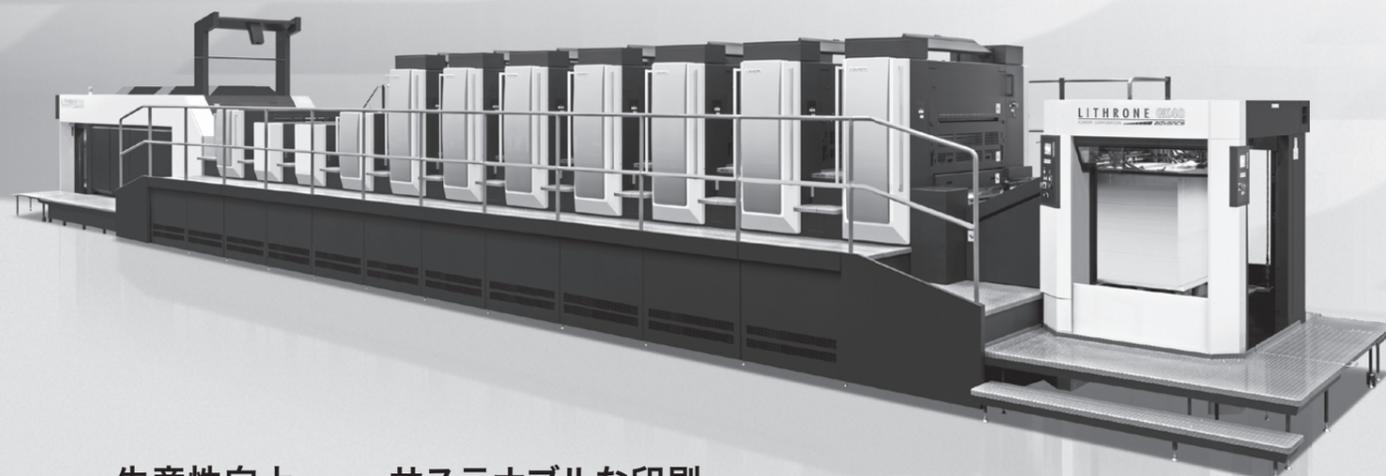
advance

EX Edition

## LITHRONE GX/G advance EX Edition 生産性とサステナビリティの新基準

世界最高クラスのROI\*1を誇り、全世界での導入が進むオフセット枚葉印刷機、LITHRONE GX/G advanceシリーズ。KOMORIはさらなる生産性向上とサステナブルな経営を実現するため、革新的な新機能を搭載した新しいLITHRONE GX/G advanceシリーズを開発しました。最新のプリントテクノロジーを駆使し、エネルギーコストの抑制と印刷オペレーターの作業効率向上を実現するLITHRONE GX/G advanceシリーズは、ビジネスを新たな次元へと引き上げます。

\*1 投資収益率 (Return on Investment)



生産性向上

サステナブルな印刷



Photo: GLX-740A  
※写真のモデルはオプション仕様を含んでいます。



詳細はこちら

# KOMORI

## ユーザーサポート こそ商品

株式会社ショーワは、謄写版および付属品の販売と謄写印刷業の「昭和謄写堂」として、昭和3年に幅弓之助が創業しました。

創業者の幅弓之助は「良いものを売り、売ったものには責任を持つ事」に頑固なまでにこだわり続け、そのこだわりは創業から100年に向けて今なおショーワの社員一人一人にDNAとして脈々と受け継がれています。

長きに渡り、多くの取引先企業様より厚い信頼を寄せて頂けるのも、企業理念にもあります様にユーザーサポートという目に見えない、形のない「商品」だからこそ、付加価値を創造し続け、溢れる情報、市場状況を正確に分析・判断しうる知識とユーザーサイドで常に物事を考える「誠意」が評価して頂けているものと考えています。

今後も常に「ユーザーサポートこそ商品」の企業理念、創業者・幅弓之助の熱い志を胸に社員一同業務につとめていく所存です。

### 21世紀のグラフィックアーツを共に考えるショーワユーザー会

コラボレーション&リサーチ

## SHOWA会

ユーザー会で密に情報交換

- 年間活動
- 研修会 ○工場見学 ○総会・幹事会
  - 会報・メールマガジンの発行 ○有志グループ活動

問い合わせ、入会お申込みは事務局まで  
SHOWA会事務局 TEL.03-3263-6141 FAX.03-3263-6149



株式会社

プリントメディアの総合商社

<http://www.showa-corp.jp/>

〒101-0065 東京都千代田区西神田2丁目7番8号 TEL 03-3263-6141(代) FAX 03-3263-6149

# KOMORI

株式会社 小森コーポレーション

〒130-8666 東京都墨田区吾妻橋3-11-1 Tel. 03-5608-7806(代表)

# TOKYO QUALITY.

すべてのSPコミュニケーションに最良の品質を。



東京リスマチック株式会社

なんでも相談窓口

プリントデスク ☎ 0120-269-132

平日(月~金) 9:00~17:00 E-mail: support@lithmatic.co.jp



Lithmatic  
http://www.lithmatic.net

Horizon  
Change the focus

## Horizon Smart Factory 2026 in HIP

# 無人化との共存

### FIRST TOUCH

[For Japan Days] 国内プログラム期間

**28** WED - **30** FRI  
**Oct. 2026**  
10:00 - 17:00

[For International Days] 海外プログラム期間

**4** WED - **6** FRI  
**Nov. 2026**

株式会社 Horizon 本社びわこ工場内 Horizon Innovation Park  
(滋賀県高島市新旭町旭1600)

2026年、Horizonは「無人化との共存」という新たな領域に挑みます。

本イベントでは、印刷・後加工・梱包・運搬の全工程で実現された無人システムをさらにブラッシュアップ。  
AGV、ロボット、さらにはドローンなど自律型技術を駆使し、人の介入を最小限に抑え、実際の印刷・製本現場での実運用を想定したフローを構築。

「無人化」に到達した次の挑戦。  
新たな未来を切り拓くファクトリーオートメーションの姿を Horizon Innovation Park でご体感ください。

主催：Horizon・ジャパン株式会社 / Horizon・インターナショナル株式会社 / 株式会社 Horizon

協賛：キヤノンマーケティングジャパン株式会社 / ダックエンジニアリング株式会社 / 富士フイルムビジネスソリューション株式会社  
ハイデルベルグ・ジャパン株式会社 / 株式会社 JSPIRITS / コニカミノルタジャパン株式会社 / リコー・ジャパン株式会社  
理想科学工業株式会社 / リョービ MHI グラフィックテクノロジー株式会社 / 株式会社 SCREEN グラフィックソリューションズ

協力：株式会社パリュマシーンインターナショナル



最新情報はこちら

Horizon・ジャパン株式会社 [www.horizon.co.jp](http://www.horizon.co.jp)

本社	〒101-0031	東京都千代田区東神田2-4-5	東神田堀商ビル5F	TEL.03-3863-5361(代)	FAX.03-3863-5360
東京支社	〒132-8562	東京都江戸川区松江5丁目10-9		TEL.03-3652-7631(代)	FAX.03-3652-8083
京都支社	〒601-8206	京都府京都市南区久世大藪町510		TEL.075-933-3060(代)	FAX.075-933-4025
福岡営業所	〒813-0034	福岡県福岡市東区多の津4-12-17		TEL.092-626-8111(代)	FAX.092-626-8112
仙台サービスセンター	〒984-0002	宮城県仙台市若林区卸町東1-7-31		TEL.022-782-2821(代)	FAX.022-782-3068

# おすすめ番組情報

いますぐチェック!

ジャグラ BB | Q

広報委員会  
が選ぶ!

カテゴリ> ニュース > 工場探訪

### 工場探訪 #4 株式会社河内屋 (東京 港支部)

東京・新橋で約150年の歴史を刻む株式会社河内屋。活版印刷や箔押しといった特殊技術を駆使し、クリエイターの「ひらめきを形にする」職人集団として知られる同社が、今、新たな挑戦を始めています。

番組では、世界17カ国で愛される文具ブランド「KUNISAWA」の展開に加え、異色とも言える「地ビール造り」の舞台裏に密着。印刷の仕上げにこだわる緻密な感性を、今度は「味」の世界へと注ぎ込み、地域に根差したクラフトビールを生み出すその情熱に迫ります。



印刷会社にやのにビール!?  
多角経営で成長だにや!



### study | 最新版ビジネスマナーを解説! カテゴリ> 教育と技術 > ビジネスマナー



今日から始める - 信頼設計 -  
ビジネスマナー基本研修 2026年版  
多様化する働き方に合わせ、対面とオンライン両方で信頼を築く「共通言語」としての型や考え方を解説します。前編では、基本ルールから挨拶、敬語までを解説しています。各社で実施するビジネスマナー研修の事前視聴用にご活用ください。



### BTube への 映像データ募集中!

スマートフォンで  
簡単投稿!

投稿方法は  
こちらから→



# 雑学コラム 野口聡の 学コラム 39

## 47都道府県のお話 (その37: 香川県)

ジャグラ会報をご覧の皆様、こん〇〇は。ジャグラ東京・東  
グラ文京支部のアクティブ・野口です。

さて、今回取り上げるのはよいよ四国最後の香川県です。  
まず皆さんが思い浮かぶのは讃岐うどんですね。でもそれではこのコラムの読者には納得いただけないでしょう。ですので、今回はうどんと並んで香川県というより四国全体として想像されるであろう四国八十八霊場巡り、つまりお遍路さんのお話でもしようかと。短い時間ですがお付き合い頂けると幸いです。

読者の皆さんの中にはお仕事のリタイア後にやってみたいな一と思っている方も居るかもしれません。私も高知に旅行に行った際に霊場巡りをされている方を拝見しました。じゃ、お遍路さん、とは一体なんぞや? という話になるかと思えます。

まず簡単に申しますと、このお遍路さんとは平安時代に真言宗を開創し高野山を開いた空海(後の弘法大師)が自身の出身である四国に開山した八十八の寺院(霊場)を真言宗の信徒の修行として巡礼する、という行為が発端とされています。今では亡くなった方や本人の死後の冥福を祈るために行われるのが主流の様です。この巡礼路を歩くという行動は西洋でもあり、キリスト教では三大聖地の1つに数えられるスペインのサンチアゴ・デ・コンポステーラへの道なんか有名です(よね? 有識者の方)

そんなお遍路さんには、白衣・輪袈裟・金剛杖が欠かせないようです。白衣には道中の厳しさから万が一の事故もあるので死装束の意味も含まれている様です。輪袈裟は元々修験者が法衣を着るものとされていたようで、現在でもその名残として参拝時の作法として輪袈裟を身に着けるべきとされているようです。金剛杖は実用的に山登りをする手助けになったりしますが、ただそれだけではなく、この杖は弘法大師の化身と言われており、この杖と共に歩く事で大師と共に巡礼する、という意味が込められています。この「大師と共に」という考えは巡礼者が被る笠(菅笠)に書かれている「同行二人(どうぎょうににん)」という言葉にも表れています。

そんな八十八の霊場、第一札所の霊山寺(りょうぜんじ)から最後の大窪寺(おおくぼじ)まで順番通りに回ることを「順打ち」と言ってこれが基本的なやり方とされますが、これを逆から周る事を「逆打ち」と言い、うるう年にこれを行うと功德が通常より高いとされています。

最後に豆知識をば。このお遍路さんの八十八の寺院(札所)は四国全体にある事は最初に書きましたが、では四国4県の内最も札所があるのはどこの県だと思いますか? イメージ的にやっぱり香川県や徳島県でしょうか。確かに第一札所は徳島県(鳴門)であり結願(最後)は香川県(さぬき市)にあります。ですが、実際に札所の数が一番多いのは愛媛県だそうです。話のタネにどうぞ。今回のお話はここまでです。お付き合いありがとうございました。

では今月の問題です。

問題: その敷地内に世界最大の砂時計がある事で知られる「仁摩(にま) サンドミュージアム」があるのは砂のイメージが強い鳥取県ではなくてどこの県でしょう?

(正解は 29 ページ)

# アプリって割と簡単に作れるのです!

## 社内報アプリを導入する企業続々!

近年、社内報をアプリで配信する企業増加中!  
経営層からのメッセージや最新ニュースなどをリアルタイムで共有。  
コメント機能やアンケート機能など、デジタルが繋ぐ、広がるキズナ。

情報共有の  
迅速化

データ分析による  
効果測定

閲覧率・  
読了率の向上  
&  
エンゲージメント  
UP

## 地域活性化を促進 デジタルスタンプラリー!

手軽に参加! 観光地や商業施設で、地域活性化や集客促進に! スマホがあれば、いつでもどこでも簡単に参加できます。参加者数や達成率などの効果測定もタイムリーにOK!

ちょっと覗いて  
みてください!

うちの社内報

ちょっと覗いて  
みてください!



研美社広報

待望の  
新入社員  
&  
後輩さん



研美社広報  
小門カトリン

# オリジナルアプリ作成は 研美社にお任せを!

導入事例  
山梨県沼津市へ導入  
新商品のご案内やEC  
サイトへの役に  
活用中!  
JaGra様へ導入  
プッシュ通知で届ける  
繋がる。旬な情報!



# 賃上げ目的が「業績」から「人材確保」へ移行

～令和7年度 中小企業労働事情実態調査結果より～

全国中小企業団体中央会はこのほど、第62回「中小企業労働事情実態調査」の結果概要を公表しました。本調査は従業員300人以下の中小企業39,849社を対象に実施され、15,371社から回答を得たものです。回答企業の約7割(68.9%)は従業員30人未満の小規模事業者です。

## 賃金動向と賃上げ実施状況

所定内賃金の加重平均値は282,456円となり、直近1年間(2024年7月からの1年間)でプラス4.0%の増加となりました。過去10年間の平均増加率が1.3%であったことと比較すると、上昇幅は拡大しています。また、「賃上げをした」あるいは「予定している」と回答した企業の割合は、令和7年度で合計70.2%となりました。この割合は直近3年間、毎年7割を超えて推移しており、賃上げを実施する企業が高い水準で維持されています。

## 賃上げ決定要因の変化

賃上げを行う理由(決定要素)については変化が見られます。今回の調査ではこれまで最多であった「企業の業績」(51.5%)を上回り、「労働力の確保・定着のため」(61.5%)が最も多い理由となりました。また、「物価の動向」(44.7%)や「世間相場」(37.5%)といった外部環境要因を選択する企業の割合も増加傾向にあります。業績要因よりも、人材確保や物価対応といった要因が賃上げの主な動機となっている状況が示されました。

## 経営上の障害：「人件費の増大」が増加

経営上の障害となっている要素についての回答では、「人材不足(質の不足)」(51.2%)や「労働力不足(量の不足)」(37.2%)が依然として高い割合を示しています。これに加え、「人件費の増大」を挙げる企業の割合が32.7%となり、直近3年間で増加しました。一方で、「原材料・仕入品の高騰」(50.3%)を選択する割合は減少傾向にあります。経営課題として、人件費の負担増を挙げる企業が増えていることが確認できます。

## 価格転嫁の実施状況

直近1年間でコスト増を販売価格や受注価格に転嫁できた企業は、全体の51.2%でした。この実施率には企業規模による差が見られます。従業員100～300人規模では56.8%が転嫁できた一方、1～4人規模の企業では43.8%となっています。また、業種別に見ると「窯業・土石」(65.3%)や「印刷・関連」(60.7%)では6割を超えています。一方、「情報通信業」では30.5%にとどまるなど、業種による差異も生じています。

## 価格転嫁の内容と転嫁率

価格転嫁を実施した企業(7,683社)における転嫁率(コスト上昇分に対する価格反映の割合)を見ると、転嫁率が「30%未満」である企業が68.8%を占めました。転嫁できたコストの内訳では、「原材料費」に比べて「人件費」や「利益」の転嫁が進んでいない結果となりました。原材料費分を転嫁できた企業のうち転嫁率が10%未満の企業は38.7%でしたが、人件費分については55.0%、利益確保分については59.1%の企業が、転嫁率は「10%未満」と回答しています。人件費や利益分に関しては、価格への反映が十分になされていない状況が数値に表れています。

## まとめ

調査結果からは、労働力の確保を目的とした賃上げが進む一方で、その原資となる価格転嫁、特に人件費分の転嫁については、十分に進んでいない状況が確認されました。企業規模が小さいほど転嫁率が低い傾向も見られ、人件費の価格転嫁に関する課題が示唆されています。

・ 出典元：  
令和7年度 中小企業労働事情実態調査結果概要  
・ 発行元：  
全国中小企業団体中央会

# 新刊案内 「積算資料 印刷料金 2026年版」発刊



一般財団法人経済調査会はこのほど、「積算資料 印刷料金 2026年版」を発刊しました。同書は、印刷物受発注における見積り・積算資料、チェック資料として活用されている価格情報誌です。印刷物の種類別に積算体系を解説、その料金と算出法や積算事例を掲載しています。さらに、印刷発注実務に関わる情報や印刷用語集など基礎知識となる情報も充実した、印刷に携わる方必携の実用書です。各種印刷積算セミナーや印刷営業の社員教育テキストとしても利用されています。

誌面は、「クリエイティブワーク」「一般印刷」「Web制作」「名刺・はがき・封筒印刷」「フォーム印刷」「ドキュメントサービス(複写・情報加工)」「地図調整」「参考資料」で構成されており、オフセット印刷はもちろん、デジタル印刷やフルフィルメント(封入封緘)料金なども網羅。各種印刷物の見積り・積算のために、工程に沿った料金と算出法を掲載しています。清書作成に必要な情報や書式サンプルなど、印刷発注実務に役立つ情報も充実しています。

取り引きの適正化に向け、価格転嫁が進む中、印刷積算の項目を改めて見直し、自社の単品損益の構成を確認する際の参考書としても活用が期待されます。今回の特集は3つです。

①デジタル・トランスフォーメーション時代におけるドキュメントサービス業、印刷業の進化～課題、トレンド、そして「情報価値創造」への戦略～

モリシタ株式会社 代表取締役社長 森下 智央  
近年、ドキュメントサービス業と印刷業はデジタル技術の進展により大きな転換期を迎えています。紙媒体中心の従来モデルから、情報とワークフローを最適化するハイブリッド型ビジネスへの移行が求められ、AIやWeb to Print、デジタル印刷機など新技術の活用が急速に進んでいます。また、マーケティング支援やドキュメントBPOといった高付加価値サービスの拡大、環境配慮や人材育成の重要性も高まっています。本稿では、こうした業界の構造変化とDXの潮流を踏まえ、未来に向けた主要トレンドを紹介いたします。

② Web制作のクリエイティブワークに関する調査結果  
一般財団法人 経済調査会 調査研究部 第二調査研究室  
経済調査会では、広報活動における課題解決を目的としたコミュニケーション戦略活動を「クリエイティブワーク」と位置づけ、その基本アプローチやワークフロー、オリエンテーションシートの役割などを本誌で紹介してきました。本稿では、受発注者間の合意形成に関する調査結果を踏まえ、オリエンテーションシートの明瞭性や発注者のスキルがプロジェクト進行に及ぼす影響、さらに両者のコミュニケーションが果たす役割を分析しています。また、分析結果をもとにプロジェクト成功に寄与する要素を整理し、クリエイティブワークにおける適切な見積りプロセスのあり方を考察します。

③クリエイティブワークの見積り事例調査結果～印刷関連サービス積算体系検討委員会の活動報告～  
一般財団法人 経済調査会 調査研究部 第二調査研究室  
情報伝達手段が多様化する中、印刷物を含む各種メディアの制作にあたり、クリエイティブワークとその適正な積算は重要度を増しています。本稿では、2025年に実施した「クリエイティブワークに関する調査」の調査項目である見積事例調査の結果を紹介し、クリエイティブワークの料金算出の考え方や料金水準の変動に関わる要素について考察します。

### 【積算資料 印刷料金 2026年版】

仕様：B5判/約400頁

価格：4,070円(本体3,700円+税)

問合せ先：0120-217-106

[https://book.zai-keicho.or.jp/book\\_info.php?id=87](https://book.zai-keicho.or.jp/book_info.php?id=87)

### 「印刷費積算講習会 2026」開催のご案内

経済調査会は「印刷料金 2026年版」発刊に合わせて今年も、「印刷費積算講習会」を開催します。同講習会は、印刷物の積算・発注業務に携わる方々のスキルアップを目的とし、「入門編」「スタンダード編」「実践演習編」の受講者のニーズに合わせた講座の選択が可能です。詳細は下記ホームページをご覧ください。

▼経済調査会講習会 HPはこちらです。

<https://seminar.zai-keicho.or.jp/>

# ジャグラー2026 大阪大会

プライベート  
**Pre event 6/19 Fri**

前夜祭 ザ・ガーデン・オリエンタル大阪



記念ゴルフコンペ ABCゴルフ倶楽部



第61回定時総会  
第68回ジャグラー文化典式典

大懇親会

マスターズクラブ総会

2026 **6/20** Sat

リーガロイヤルホテル大阪



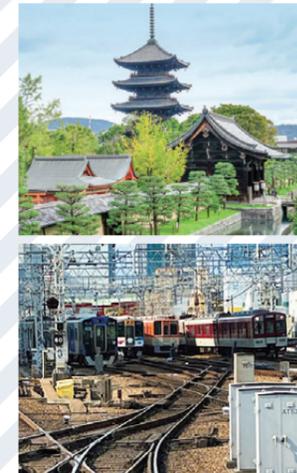
Optional  
オプションツアー

Tour

南近畿・世界遺産を結ぶ旅  
百舌鳥古墳群と  
高野山をめぐる1泊2日 **6/21 Sun 22 Mon**

京の愉しみ  
世界遺産から祇園の舞まで  
五感で浸る、初夏の京都一日旅 **6/21 Sun**

乗り歩き、食べ歩き、飲み歩き  
関西の鉄道 日帰り旅行 **6/21 Sun**



お問い合わせ

総会・文化典・マスターズクラブ総会について

ジャグラー事務局 03-3667-2271

懇親会・ゴルフコンペ・オプションツアーについて

大阪府グラフィックサービス協同組合 06-6227-8512

# SPACE-21 広報部 グラフィックサービスが好きだ。 だからこそ、四国に「本音」で話せる場を。

SPACE-21 高知 近 森 純一郎  
(有)近森膳写堂



## 1. 印刷業界の「今」と、四国が直面する課題

印刷業界は今、デジタル化の加速や顧客ニーズの多様化、そして深刻な担い手不足という大きな転換期にあります。特に私たち四国のような地方においては、企業規模の壁や県境という物理的な枠組みを越えた連携、そして次世代を担う人材育成が、かつてないほど重要な課題となっています。

「このままでいいのか」という漠然とした不安。しかし、四国にはこれまで、若手が集い、こうした悩みを共有できる強固な土台が十分ではありませんでした。中小零細企業が多いこの地で、次世代のリーダーが孤立し、会社の灯が消えてしまうことだけは避けなければなりません。

## 2. なぜ今、「SPACE-21 四国」なのか

こうした背景から、全国各地で若手経営者が未来を切り開いてきた「SPACE-21」の理念を四国4県に広げ、新たな活動拠点として「SPACE-21 四国」を設立することにいたしました。

私たちのテーマは「グラフィックサービスが好きだ。だからこそ、この先を考えたい」です。「印刷だけでは生き残れない。だが、印刷もあるからこそ拡がっていきける」という共通認識のもと、印刷業を軸にデザイン、WEB、映像、

IT、マーケティングといった隣接分野の皆様とも積極的に連携していきます。

## 3. 「建前」を捨て、「本音」でつながる関係性

SPACE-21 四国が最も大切にするのは、単なる情報交換や親睦の場にとどまらない、「本音で腹を割って話せる仲間づくり」です。

- ・相談できる仲間が四国全域にいる状態を作る
- ・成功事例だけでなく、悩みや失敗からも共に学べる場にする
- ・5年、10年後に効いてくる、利害を超えたフラットな関係性を築く

短期的な成果や営業・売り込みを目的とするのではなく、将来に向けた強固な人間関係の構築を重視します。四国内の若手グラフィックサービス関係者が一人も取り残されることなく、安心して挑戦できる環境を、自らの手で作り上げたいと考えています。

時間はかかるかもしれませんが、将来的にジャグラーへステップアップすることを目標として活動してまいります。

## 4. 未来への第一歩

2026年4月18日(土)、香川県高松市にて「SPACE-21 四国 結成式・フォーラム」を開催します。四国発の活動モデルとして、この「四国」という地から、次に動く仲間と出会うことを心より楽しみにしています。

全国のSPACE-21の皆様、ジャグラーの先輩方、四国は香川県高松市にぜひお越しくださいませ。



会場全体像



会場眺望



## 業界の動き

### 会員情報

#### 「はじめての社内報マニュアル」無料公開 株式会社グッドクロス

株式会社グッドクロス(東京都品川区)は、2026年1月12日に創業25周年を迎えたことを記念し、同社が長年実践してきた制作ノウハウをまとめた資料「はじめての社内報マニュアル」の無料公開を開始しました。

特筆すべきは、デジタル化やWeb社内報の導入が進む現在も、あえて「紙媒体」を選択している点です。さらに、コロナ禍でのテレワーク普及を機に、社員の自宅へ直接郵送する配布形態をとっています。これは「社員一人ひとりが家族にとっても大切な存在である」という同社の経営理念に基づき、会社の雰囲気や働く姿を家庭にも伝え、安心感を提供するための工夫です。年に一度は全社員が誌面に登場するよう構成するなど、社員だけでなくその家族も読者として想定した編集方針が、組織の一体感の醸成に寄与しています。

今回公開されたマニュアル(PDF全18ページ)は、こうした10数年に及ぶ運用の経験に基づき、広報初心者がつまずきやすいポイントを解消する実践的な内容となっています。特別な専用ツールを使わずとも、手順通りに進めることで形にできるよう構成されているのが特徴です。

発行日から逆算した無理のない進行管理や、目的に応じた企画の立て方など、発行を持続させるための基盤作りを解説しています。また、他部署へのスムーズな原稿依頼の方法や、「読みたいくなる写真」の撮影ポイント、インタビューや座談会の効果的な進め方などを網羅しています。

同社では、これまでも「プレスリリース虎の巻」や「インスタグラム虎の巻」といった実務資料を無料公開しており、企業の広報活動を支援してきました。今回のマニュアルも、同社が25年間培ってきた「伝える技術」と「業務プロセスの構築力」を社会に還元する取り組みの一環です。また、同社Webサイトでは創業からの歩みを振り返る25周年特設ページも公開されています。

「社内報を作りたいがノウハウがない」「マンネリ化してしまった」「通常業務が忙しくて手が回らない」といった悩みを持つ広報担当者は少なくありません。これから社内報を立ち上げたい企業はもちろん、コストを抑えて内製化を目指したい担当者にとって、即戦力となるガイドブックです。

株式会社グッドクロス <https://www.goodcross.com>

### 関連団体

#### 「出版業界でのデジタル印刷活用を推進する 共同宣言」を発表

日本出版取次協会／電子出版制作・流通協議会

一般社団法人日本出版取次協会(取協)と一般社団法人電子出版制作・流通協議会(電流協)は2026年1月20日、「出版業界でのデジタル印刷活用を推進する共同宣言」を発表しました。長年の構造課題である高返品率や物流危機の解決に向け、少数・短納期製造が可能な「デジタルショートラ(DSR)」の普及を推進し、持続可能な出版エコシステムの再構築を目指します。

出版業界では現在、書籍返品率が約35%という高水準で推移しており、在庫不足による販売機会ロスは年間約130億円に上ると推計されています。従来の大量生産・大量配本モデルは、物流コストの高騰や環境負荷(ESG経営)の観点からも維持が困難になりつつあります。両団体はこうした現状に強い危機感を表明し、必要な時に必要な分だけ製造するDSRへの転換こそが、在庫リスクを極小化し、廃棄コストを削減する鍵であるとしました。

DSRの活用は、単なるコスト削減にとどまりません。従来、採算面から重版が困難だった専門書や文芸書などの多品種少量出版物を維持し、「重版未定」による絶版を防ぐことで、出版文化の多様性を守る狙いがあります。

本宣言の実効性を高めるため、業界の垣根を越えた合同プロジェクトチームも発足しました。取次からはトーハンや日本出版販売(日販)、印刷からは大日本印刷(DNP)やTOPPANなど、通常は競争関係にある大手企業が参画しています。今後は「協調領域」として、デジタル印刷の標準仕様策定や、円滑な流通ルールの整備など5つの項目で具体策を進めていきます。

両団体は、今回の宣言を「ゴールではなくスタート」であると強調しており、読者が欲しい本をいつでも手に入れられる環境の実現に向けて、業界全体のインフラ改革が本格的に始動します。

#### お詫びと訂正

本号同封のジャグラー文化典大阪大会パンフレットの後援に「日本印刷機材連合会」とありますが、正しくは「日本印刷機材協議会」です。訂正してお詫び申し上げます。

# 神保町で Zine & Book フェス

## ZINEの流通セミナーも

2026年1月18日(日)・19日(月)の2日間、東京都千代田区の出版クラブビルで「Zine & Book フェス in 神保町」(主催:東京文化資源会議 協賛:読売新聞東京本社)が開催されました。会場では、個人や小規模グループが制作する小冊子「ZINE(ジン)」や独立系出版物が販売されたほか ZINE に関するセミナーも行なわれました。デジタル化が進む中で、物理的な媒体である ZINE 市場が独自の広がりを見せています。本稿では、同イベントのレポートと共に、中小印刷業にとっての事業機会を探ります。

### 商業印刷とは異なる品質基準

会場の「BOOK エリア」「ZINE エリア」に並んだ作品群からは、商業印刷の標準仕様とは対照的な傾向が見て取れました。ZINE の制作は、クラフト紙、わら半紙、トレーシングペーパーといった特殊紙や非塗工紙が多用されています。また、リソグラフ(孔版印刷)特有の版ずれや色むら、かすれといった現象が、欠陥ではなく「アナログな味わい」として肯定的に受け入れられている点も特徴です。高精細なフルカラー印刷機だけでなく、旧型設備や在庫として滞留している特殊紙(端紙)が、クリエイターにとって有効な表現ツールになり得ます。

### 「届ける」ことへの課題

イベント2日目に行われた仲俣暁生氏(編集者・文芸評論家・大正大学教授)と碓雪恵氏(ライター)による対談「私たちにとっての本と ZINE の流通:これまでとこれから」では、作り手の課題が「制作」から「流通」へ移行している現状が報告されました。DTP 環境の普及により ZINE の制作ハードルは低下していますが、取次・書店ルートに乗らない小規模出版物にとって、販路の確保や物理的な「届ける作業」は大きな負担となっています。講演では、書店への配本や、通販購入者への梱包・発送作業といった実務面が、クリエイターの重荷になっている点が指摘されました。



### 求められる「パートナー」としての機能

大手ネット印刷通販との価格競争を回避し、この市場で収益を上げるためには、単なる製造受託にとどまらない、付加価値提供が求められています。

以下は考えられる付加価値提供の例です。

#### 1. 流通を見据えた仕様提案

個人のクリエイターに対し、書店の棚に並べやすい判型や、背幅(束)を確保できる紙厚・製本方式を提案します。また、JAN コード(バーコード)や ISBN コードの取得代行を行うことで、一般流通への接続を支援します。

#### 2. 物流・フルフィルメントサービス

在庫管理や発送作業のアウトソーシングを受託します。クリエイターがオンラインで販売した商品を、印刷工場から購入者へ直送する体制(フルフィルメントサービス)や、即売会イベント会場への直接搬入サービスなどが考えられます。

#### 3. コンサルティングと極小ロット対応

用紙選びやデータ作成(RGB データの処理等)に不安を持つ初心者への「相談機能」の提供です。また、在庫リスクを懸念する個人のために、10部~30部程度から受注可能なパッケージ商品を用意することで、参入障壁を下げます。

ZINE 市場は多品種・小ロットの需要が中心ですが、そこには「自身の作品を形にして届けたい」という根強いニーズが存在します。顧客の熱量に対し、製造と流通の両面からサポートを提供することができれば、新たな展開への第一歩になると思いました。

## 事務局日誌と今後の予定

最新情報は HP でご確認ください

### 2月の事務局日誌

- 3日 P マーク現地審査(神奈川)→今田、笠原 業態進化委員会(Web会議)
- 6日 広報委員会(Web会議)
- 7日~8日 北陸地協総会・新年会(石川)→田中専務
- 9日 日印機協情報交流会(出版クラブ)→田中専務
- 13日 作品展委員会(Web会議)→田中専務  
P マーク現地審査(愛知)→今田  
サスティナブル委員会(栃木)→笠原
- 17日 委員長会議(Web会議)
- 18日~20日 page2026
- 19日 ジャグラショートカット運営委員会(Web会議)
- 20日 SPACE-21 全国交流キャラバン(山梨)→笠原
- 25日 生産性向上・MIS 研究合同委員会(本部)  
地域活性化委員会(Web会議)
- 26日 P マーク現地審査(高知)→田中専務  
ジャグラコンテスト委員会(Web会議)
- 27日 P マーク現地審査(高知)→田中専務

### 3月のスケジュール

- 2日 広報委員会(Web会議)  
70周年記念誌編集委員会(Web会議)
- 3日 会員拡大委員会(Web会議)  
正副会長会議(Web会議)  
業態進化委員会(Web会議)
- 4日 P マーク審査会・個人情報保護委員会(本部)  
東京グラフィックス理事会(本部)→田中専務
- 11日 産連ステコミ→岡本会長、田中専務
- 17日 JPA、東印工組 合同セミナー(茗渓会館)→岡本会長、田中専務、笠原
- 18日 日印産連理事会(Web会議)→岡本会長
- 19日 理事会(本部)
- 26日 P マーク現地審査(大阪)田中専務、笠原
- 27日 P マーク現地審査(大阪)田中専務、笠原

### 4月のスケジュール

- 1日 広報委員会(Web会議)
- 2日 JPA 入学式→田中専務
- 8日~9日 ジャグラ作品展一次審査会(本部)
- 18日 SPACE-21 総会(香川)→岡本会長、田中専務、笠原
- 22日 ジャグラ作品展最終審査会(本部)→岡本会長、田中専務

### 事・務・局・便・り

私事で恐縮ですが、令和8年3月20日をもってジャグラを退職することとなりました。平成18年の入局以来、約20年の長きにわたりジャグラの運営に携わらせていただきました。特に「ジャグラBB」「SPACE-21」「プライバシーマーク審査業務」には深く関わらせていただき、皆様とコミュニケーションを重ねてきたこと、私にとって一生の財産です。今後については、違う業種になりますが新しいチャレンジをしていく予定です。最後になりますが、貴業界の益々のご発展と皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。長年にわたり誠にありがとうございました。今田 豪

※「事務局便り」は本部事務局員が交替で執筆しています

### 月刊「グラフィックサービス」892号

■発行日 令和8年3月10日(毎月1回)  
■発行人 岡本 泰  
■編集人 本村 豪経  
■発行所 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16  
電話 03-3667-2271 ファクス 03-3661-9006  
ウェブ <https://www.jagra.or.jp/>



ジャグラは一般財団法人日本情報経済社会推進協会指定のプライバシーマーク指定審査機関です

■編集部宛メール [edit@jagra.or.jp](mailto:edit@jagra.or.jp)

### ◎企画: ジャグラ広報委員会

担当理事 神山 明彦 愛知・(株)カミヤマ / 副会長  
委員長 本村 豪経 福岡・アイメディア(株) / 理事  
委員 東海林正豊 秋田 / (株)東海林印刷  
谷山 和也 東京 / 菁文堂(株)  
野口 聡 東京 / (株)アクティブ  
小澤孝一郎 山梨 / (株)オズプリンティング  
安達 睦男 大分 / (株)舞鶴孔版  
瀬尾 淳 広島 / (株)広瀬印刷  
三宮 健司 高知 / (株)三宮印刷  
佐藤 愛子 大分 / (株)クリエイツ  
西谷 毅 東京・文京 / (株)西谷印刷(株)  
松谷 勝広 東京・文京 / (株)松谷メールサービス  
笹井 靖夫 東京・文京 / 共立速記印刷(株)  
田中 良平 専務理事

◎原稿・編集・校正  
田中 良平 阿部奈津子 今田 豪  
長野未奈美 笠原賢一郎  
以上、ジャグラ事務局

◎渉外 田中 良平  
◎広告 田中 良平  
◎Web 阿部奈津子  
◎動画 今田 豪

◎組版 (株)クリエイツ(大分県支部)  
DTP = Adobe CC ほか  
フォント = モリサワ OTF / モリサワ BIZ+ ほか



※本誌の一部にユニバーサルデザインフォントを使用しています

◎製版 / 印刷 (有)西村謄写堂(高知県支部)  
RIP = FUJIFILM WORKFLOW xmf  
CTP = Luxel T-6300 (自現:富士フィルム XP-1310R)  
印刷機 = FUJIFILM SURERIA XP-F  
印刷機 = RYOBI 924D  
インキ = 東洋インキ  
用紙 = 三菱ニューVマットA判 57.5kg

Copyright 2026 JaGra  
禁無断引用

※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です  
原則、TM や®マークは省略しています  
※乱丁 / 落丁本はお取り替えいたしません

# RMGT-CSPI

## ともに創る印刷の未来



### RMGT-CSPIが

### SDGs達成をアシスト



印刷会社のSDGs達成のためのソリューションを提案、具現化するRMGT-CSPI。  
各分野の企業が連携し、お客さまに寄り添いながら課題を解決・サポートします。

